

科目名	教育臨床学特講	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本科目では、論理的・批判的思考力を身に付けることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 教育問題を発見し、解決していく糸口を探るために、臨床的人間形成論や教育臨床学などの知見を理解し、論理的・批判的思考力を身につけながら、新たな教育の捉え方を示すことができる</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床的人間形成論や教育臨床学の知見を理解することができる。</li> <li>今日の教育問題について、批判的に分析することができる。</li> <li>自ら問いを立てながら考察し、自分の考えを論理的に説明することができる。</li> <li>教育課題の捉え方を示すことができる。</li> </ul> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>【学修方略（LS）】 基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。まず、著者の立場を理解しながら、読み進めてほしい。とくに、基本教材1と基本教材2のどちらにおいても、著書のなかで用いている概念が、事典等とは異なる意味を含んでいることもあるため、著者がどのように定義しているのかを整理しながら読んでほしい。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。 基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月中、課題2は8月中に草稿を提出すること。 基本教材2の課題1は11月中、課題2は12月中に草稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論理展開、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	平常評価	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 田中每実『臨床的人間形成論—ライフサイクルと相互形成』（勁草書房，2003）            教材名： ISBN: 978-4-326-29875-4 2,800円＋税</p> <p>本教材は、伝統的教育学の「発達と教育」という概念を批判し、理論と実践の連関を問うものとして「ライフサイクルと異世代間の相互性」を中核概念とする「臨床的人間形成論」の理論構築を試みたものである。また、臨床的人間形成論は、「日常的な奇跡」について語るものであり、私たちの日常性に希望を見出すものでもあるとされる。なお、本教材では、ホスピタリズム、児童虐待、老いと死の受容などを扱っている。</p>
参考図書	<p>紀夫編『臨床教育学の生成』（玉川大学出版部，2003年）            978-4-472-40294-4 4,200円＋税            田中每実『臨床的人間形成論の構築—臨床的人間形成論第2部』（東信堂，2012年）            ISBN:978-4-7989-0091-9 2,800＋税</p>
履修上のポイント	<p>本教材の立場を理解するためにも、理論的な総括がされている第5章を参照しながら、読み進めるとよい。著者はエリクソンの「ライフサイクル論」や森昭の「人間形成論」、さらには皇紀夫らの「臨床教育学」などの影響を受けながら、「臨床的人間形成論」を構築している。本課題は、これらの背景を踏まえつつも、著者による具体的な題材の分析と考察について検討してほしい。「ホスピタリズム」「児童虐待」「老いと死の受容」についてどのような観点から考察し、どのような見解を導いているのかを理解してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>第1章と第3章を読み、子どもの人間形成論と、家族の生成とおとなの人間形成論に関する著者の主張を整理し、それに対する自分自身の意見を述べなさい。  <b>留意点</b>：「システム」と「相互性」、異世代間の相互形成などの視点に着目しながら考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>第4章を読み、老人の人間形成論に関する著者の主張を整理し、それに対する自分自身の意見を述べなさい。  <b>留意点</b>：異世代間の相互形成という視点から「老いと死の受容と成熟」という問題をどう捉えているのかに着目しながら考察すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 田中智志『教育臨床学—（生きる）を学ぶ』（高陵社書店，2012年）            教材名： ISBN:978-4771109995 2,500円＋税</p> <p>本教材は、教育学を、人が生き生きと生きることを語る存在論に近づけるための試みたものである。教育臨床学が語ろうとする教育は、かけがえのない固有な人間存在の生き生きとした生を支え助ける教育とされ、「人が生きること」を他者と共に生きること、他者に支えられ他者を支えつつ生きることであるとする「臨床哲学」という思考から教育を捉えようとするものである。</p>
参考図書	<p>田中智志『他者の喪失から感受へ—近代的教育装置を超えて』（勁草書房，2002）            ISBN:978-4-326-29873-0 2,400円＋税            田中智志『臨床哲学がわかる事典』（日本実業出版社，2005年）            ISBN:978-4534039880 1,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>本教材では、著者が提唱する「教育臨床学」の基本的命題と具体的な教育現実における教育臨床的な知見が示されている。本教材の立場を理解するためにも、その特徴や概要が述べられている第1章と第13章を参照しながら、本文を読み進めるとよい。第1章では「教育臨床学」が重視する「固有性（代替不可能性）や「関係性」について述べられている。また、第13章では、基本教材1の「臨床的人間形成論」との共通点と違いについても述べられているので、参考にするとよい。また、『臨床哲学がわかる事典』は、臨床哲学で用いられている概念を整理した事典であるが、著者が使用する概念の意味を理解するのに参考になる。なお、『他者の喪失から感受へ』は「教育臨床学」を提唱する以前の著作であるが、生の悲劇性、他者の個性性、関係の冗長性、悲劇の感覚、驚異の感覚などの概念に着目しつつ、教育の再構築を試みている。</p>
レポート課題 1	<p>第2章と第6章を読み、「いのち」の実相や「聴く」ことや「待つ」ことに関する著者の主張を整理し、それに対する自分自身の意見を述べなさい。  <b>留意点</b>：第I部を通読し、課題に関連するようであれば他の章も関連させて論じてよい。著者が鷲田清一の「臨床哲学」を参照しながら理論を構築している点を踏まえ、これらの観点をどのように教育の問題として捉えようとしているのかに着目しながら考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>第8章か第10章のいずれかを取り上げて、「児童虐待」論や「いのちの教育」論に関する著者の主張を整理し、それに対する自分自身の意見を述べなさい。  <b>留意点</b>：第II部を通読し、課題に関連するようであれば他の章も関連させて論じてよい。著者が「児童虐待」論や「いのちの教育」論をどのように捉えているのかに着目しながら考察すること。</p>